

## 農業の温室効果ガス削減、「星」表示で見える化

### ◆農家の温室効果ガス削減への取り組み、星の数で評価

農林水産省は、2022年11月、温室効果ガス削減の取り組みを強化して栽培された農産物について、3段階の「星」の数で評価したラベルで「見える化」する実証実験を始めた。温室効果ガス削減への取り組み成果を、消費者にわかりやすく伝えるねらいがあり、脱炭素化に取り組む生産者にとっても励みになる。

算定方法は、農家の生産情報（栽培データ）を基に、都道府県別または地域別の品目別慣行農法の標準値と比較した相対削減率を算定する。ミシュランをヒントにし、温室効果ガス削減率が5%以上は一つ星（★）、10%以上は二つ星（★★）、20%以上で三ツ星（★★★）としている。虚偽入力で得た星を使うと、景品表示法違反となることも示している。22年度は、排出量を比較しやすい米、トマト、キュウリの3品目からスタートし、首都圏や近畿圏のスーパーや飲食店など約10カ所で販売している。消費者調査などで効果を検証しながら、22年度中に対象品目を約20品目まで増やし、23年度から本格運用に乗り出す方針だ。

### ◆農薬・化学肥料使用量や燃料の低減などで温室効果ガス削減に取り組む農家

温室効果ガス削減のために農家が行っているのは、化学肥料・化学農薬の使用量低減のほか、堆肥施用、冬期の暖房不使用などがある。また稲作の過程では、夏場に田んぼの水を抜く「中干し」作業がある。河内長野産の三ツ星トマトとラベル表示が、その期間を地域慣行より1週間程度延長することで、その期間を地域慣行より1週間程度延長することで、土壌に酸素が供給され、メタン発生量を抑制できる。



出所：農林水産省

三ツ星に認定された大阪府河内長野産のハウス栽培のトマト（写真）生産者の場合は、農薬や化学肥料の使用量を慣行農法の標準値の半分以下に減らし、冬も暖房を使わないことが評価された。

今回の実証事業は、農林水産省が22年7月に法制化した「みどりの食料システム戦略」の一環で、50年までに農林水産業の温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標を掲げている。生産者の努力だけでは達成はむずかしく、流通小売り、消費者を巻き込んだ取り組みが、今後ますます必要になるだろう。【秋元真理子】